

都道府県別組体操事故統計（2018年版）

日本スポーツ振興センターが提供する平成 29 年度（2017）と平成 28 年度（2016）の災害共済給付件数をもとに¹⁾、都道府県別事故統計を作成した。2016 年 3 月に出された文部科学省ならびにスポーツ庁の通知（安全性が確保できない場合は組体操の実施を見送る）が反映されているかを調べるためである。

負傷人数の比較だけでなく、負傷人数を各都道府県の児童・生徒数で割ったものでも比較した。

データから次のことが読み取れる。

1. 2017 年度の小中学校の負傷人数は 4418 件で、2016 年度の 4967 件に比べると約 1 割の減（11%）、2015 年度の 7702 件に比べると約 4 割の減（43%）となっている。
2. 骨折人数は 1088 件で、いまだに 1000 件を超える。負傷人の四人に一人（25%）の割合で骨折している。
3. 負傷人数の都道府県別の順位はほとんど変わっていない。
4. 兵庫県は負傷人数が 3 年連続で全国最多である。
5. 小中高校別に見ると、それぞれに特徴がある。
6. この中には広島大附属三原中学の移動ピラミッドによる死亡事故（2016 年 6 月）は含まれていない。

組体操が社会問題となり、各部署の努力により事故件数は減ってきているが、2018 年春の運動会で、いまだに 9 段ピラミッドを実施している中学校が確認されている。死亡や重大事故につながる危険な技は中止すべきである。

各都道府県の教育委員会ならびに学校関係者は、それぞれの事故統計を正確に把握し、組体操事故ゼロ（撲滅）をめざし一層の改善を目指してください。

この統計資料は、本来、文部科学省が率先して作成すべきものですが、文部科学省をはじめスポーツ庁、日本スポーツ振興センターのどの組織も実施していないので、やむを得ず私が作成しました。次回からは関係部署の責務として作成し、公開してください。

大阪経済大学

西山 豊

（連絡先）

〒533-8533 大阪市東淀川区大隅 2-2-8

大阪経済大学 情報社会学部

西山 豊

Tel: 06-6328-2431（代） 06-6990-3694（直）

E-mail: nishiyama@osaka-ue.ac.jp

HomePage: <http://www.osaka-ue.ac.jp/zemi/nishiyama/index.html>

都道府県別組体操事故統計 (小中学校)

調査対象年度：平成29年度(2017)、平成28年度(2016)
 負傷人数：災害共済給付における体操(組体操)での給付件数(初回医療費)
 骨折：負傷者数のうちの骨折人数
 児童生徒1万人に対する負傷人数：負傷人数を児童生徒数で割ったもの
 資料提供：日本スポーツ振興センター(JSC)

平成29年度(2017)

| 小中学校 | 負傷人数 | 骨折 | 児童生徒1万人に対する負傷人数 |
|---------|------|------|-----------------|
| 1 兵庫県 | 566 | 169 | 12.8 |
| 2 大阪府 | 464 | 127 | 10.3 |
| 3 埼玉県 | 361 | 74 | 9.5 |
| 4 福岡県 | 304 | 65 | 9.2 |
| 5 東京都 | 294 | 83 | 8.5 |
| 6 愛知県 | 256 | 69 | 8.4 |
| 7 広島県 | 172 | 36 | 7.5 |
| 8 長野県 | 160 | 26 | 7.4 |
| 9 千葉県 | 151 | 37 | 7.3 |
| 10 神奈川県 | 148 | 39 | 7.17 |
| 11 三重県 | 134 | 31 | 7.16 |
| 12 静岡県 | 122 | 20 | 7.1 |
| 13 奈良県 | 91 | 23 | 6.9 |
| 14 滋賀県 | 89 | 18 | 6.4 |
| 15 京都府 | 89 | 26 | 6.1 |
| 16 岡山県 | 85 | 18 | 5.92 |
| 17 熊本県 | 85 | 24 | 5.86 |
| 18 香川県 | 81 | 23 | 5.8 |
| 19 山口県 | 64 | 15 | 5.5 |
| 20 大分県 | 64 | 18 | 4.5 |
| 21 宮崎県 | 54 | 14 | 4.13 |
| 22 和歌山県 | 53 | 10 | 4.09 |
| 23 佐賀県 | 49 | 12 | 3.8 |
| 24 鹿児島県 | 48 | 13 | 3.5 |
| 25 北海道 | 47 | 9 | 3.25 |
| 26 群馬県 | 42 | 10 | 3.16 |
| 27 長崎県 | 41 | 10 | 3.0 |
| 28 山梨県 | 38 | 9 | 2.9 |
| 29 鳥取県 | 38 | 13 | 2.67978 |
| 30 岐阜県 | 29 | 7 | 2.67975 |
| 31 愛媛県 | 28 | 8 | 2.1 |
| 32 茨城県 | 27 | 6 | 1.8 |
| 33 石川県 | 27 | 4 | 1.74 |
| 34 栃木県 | 24 | 7 | 1.72 |
| 35 岩手県 | 16 | 2 | 1.5 |
| 36 高知県 | 15 | 4 | 1.4 |
| 37 宮城県 | 14 | 2 | 1.25 |
| 38 徳島県 | 10 | 3 | 1.19 |
| 39 沖縄県 | 10 | 4 | 0.8 |
| 40 福井県 | 9 | 0 | 0.7 |
| 41 青森県 | 5 | 0 | 0.6 |
| 42 秋田県 | 4 | 0 | 0.54 |
| 43 富山県 | 4 | 0 | 0.50 |
| 44 山形県 | 2 | 0 | 0.4 |
| 45 福島県 | 2 | 0 | 0.2 |
| 46 島根県 | 2 | 0 | 0.1 |
| 47 新潟県 | 0 | 0 | 0.0 |
| 全国 | 4418 | 1088 | 平均 4.5 |

平成28年度(2016)

| 小中学校 | 負傷人数 | 骨折 | 児童生徒1万人に対する負傷人数 |
|---------|------|------|-----------------|
| 1 兵庫県 | 601 | 173 | 15.8 |
| 2 大阪府 | 534 | 140 | 13.5 |
| 3 埼玉県 | 376 | 82 | 12.3 |
| 4 東京都 | 356 | 97 | 12.2 |
| 5 福岡県 | 356 | 85 | 9.1 |
| 6 愛知県 | 269 | 79 | 8.6 |
| 7 神奈川県 | 209 | 48 | 8.5 |
| 8 千葉県 | 176 | 43 | 7.9 |
| 9 広島県 | 167 | 39 | 7.82 |
| 10 長野県 | 165 | 33 | 7.80 |
| 11 静岡県 | 148 | 33 | 7.3 |
| 12 京都府 | 134 | 41 | 7.24 |
| 13 岡山県 | 123 | 33 | 7.23 |
| 14 滋賀県 | 114 | 22 | 7.14 |
| 15 三重県 | 102 | 21 | 7.08 |
| 16 香川県 | 98 | 22 | 6.9 |
| 17 奈良県 | 80 | 18 | 6.7 |
| 18 熊本県 | 79 | 15 | 5.7 |
| 19 山口県 | 75 | 17 | 5.4 |
| 20 鳥取県 | 72 | 26 | 5.3 |
| 21 北海道 | 71 | 15 | 5.1 |
| 22 大分県 | 66 | 21 | 5.0 |
| 23 和歌山県 | 63 | 15 | 4.5 |
| 24 栃木県 | 55 | 7 | 4.3 |
| 25 群馬県 | 55 | 12 | 3.7 |
| 26 鹿児島県 | 44 | 14 | 3.5 |
| 27 山梨県 | 42 | 14 | 3.4 |
| 28 佐賀県 | 41 | 11 | 3.2 |
| 29 茨城県 | 39 | 11 | 2.8 |
| 30 長崎県 | 39 | 6 | 2.7 |
| 31 石川県 | 35 | 2 | 2.5 |
| 32 宮崎県 | 34 | 14 | 1.96 |
| 33 岐阜県 | 30 | 7 | 1.95 |
| 34 愛媛県 | 29 | 7 | 1.9 |
| 35 沖縄県 | 20 | 8 | 1.8 |
| 36 高知県 | 15 | 5 | 1.3 |
| 37 宮城県 | 11 | 2 | 1.0 |
| 38 徳島県 | 11 | 2 | 0.8 |
| 39 岩手県 | 8 | 3 | 0.62 |
| 40 青森県 | 6 | 0 | 0.608 |
| 41 新潟県 | 5 | 0 | 0.607 |
| 42 山形県 | 4 | 1 | 0.47 |
| 43 福島県 | 3 | 0 | 0.46 |
| 44 富山県 | 3 | 1 | 0.3 |
| 45 秋田県 | 2 | 1 | 0.20 |
| 46 福井県 | 1 | 0 | 0.19 |
| 47 島根県 | 1 | 0 | 0.1 |
| 全国 | 4967 | 1246 | 平均 5.0 |

89%
対前年度比

[付記1] 組体操による死亡事例

日本スポーツ振興センター（JSC）によれば、組体操の死亡事例は、昭和45年（1970）から平成27年（2015）までの間に死亡見舞金給付案件が9件ある^[2]。2016年6月の広島大付属三原中学の移動ピラミッドによる死亡事故（裁判中）は遺族に死亡見舞金が給付されていないが、死亡事例は10件目となる（表1）^[3]。

| No | 学校種 | 発生年 | 給付年度 | 学年 | 性別 | 死因 | 演技別 | 災害発生時の位置 | 新聞掲載 | 裁判 |
|----|------|-------|--------|----|----|--------------|---------|----------|------|-----|
| 1 | 小学校 | 1973年 | S48～52 | 6年 | 男 | 頭部打撲 | 2段タワー | 2段目 | | |
| 2 | 小学校 | 1983年 | S58 | 6年 | 女 | 脳挫傷、急性硬膜外血腫 | 2段タワー | 2段目 | 朝日新聞 | |
| 3 | 小学校 | 1988年 | S63 | 6年 | 男 | 急性心不全 | 3段ピラミッド | 土台（1段目） | 毎日新聞 | |
| 4 | 中学校 | 1970年 | S45～47 | 3年 | 男 | 腎不全 | 倒立からの肩車 | 2段目 | | |
| 5 | 中学校 | 1973年 | S48～52 | 2年 | 男 | 脳内出血 | 3段タワー | 2段目 | | |
| 6 | 中学校 | 1988年 | S63 | 2年 | 男 | ※急性心不全 | 不明 | 説明中、体育座り | | |
| 7 | 中学校 | 1990年 | H4 | 3年 | 男 | 圧死 | 4段タワー | 2段目 | 毎日新聞 | 和解 |
| 8 | 中学校 | 1994年 | H8 | 2年 | 男 | ※心筋炎 | 3段タワー後 | 完成後、歩き始め | | |
| 9 | 高等学校 | 1975年 | S50～54 | 1年 | 男 | 皮下十二指腸後腹膜内破裂 | 3段タワー | 2段目 | | |
| 10 | 中学校 | 2016年 | | 3年 | 男 | 小脳出血 | 移動ピラミッド | 2段目 | 中国新聞 | 裁判中 |

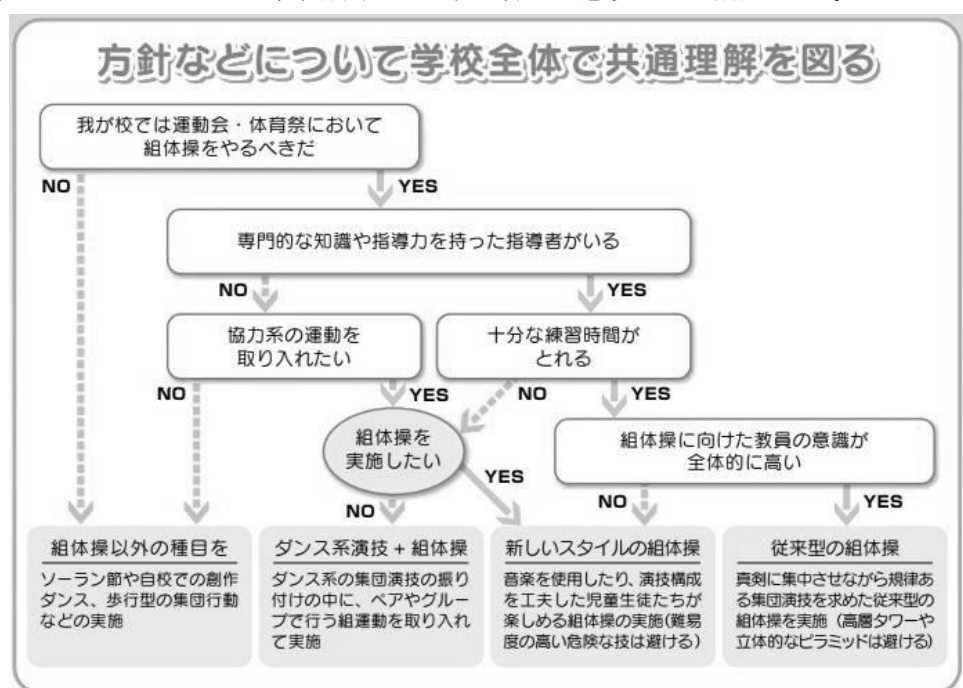
※ 組体操練習時の突然死

表1 組体操による死亡事例（日本スポーツ振興センターの資料^[2]に西山が加筆）

[付記2] 安全確保できない場合は中止を

次のフローチャートは、日本スポーツ振興センター学校安全部による「組体操による事故を防ぐために！」（教職員向け、平成29年9月号）から抜粋したものである（図1）^[4]。

「安全確保できない場合は中止を」とスポーツ庁は指針を出している（平成29年3月）。組体操の事故件数は年間8000件が推移していて、2016年度は5300件に減少したが、骨折はいまだに1000件を超えている。重大事故や死亡事故が起こらないために、関係者には今一層の注意喚起を要請したい。



平成28年度スポーツ庁委託事業 スポーツ事故防止対策推進事業 「体育的行事における事故防止事例集」より

図1 組体操による事故を防ぐために^[4]

[付記3] 9段ピラミッドや5段タワー

(1) 大阪府東大阪市のある中学校は、2018年6月に9段ピラミッドを実施しています。こんなことをやっている学校がいまだにあります。死者が出たら校長や教師は責任を取るのでしょうか。

<https://www.youtube.com/watch?v=7bzY0aYL4Ks&feature=youtu.be>

この動画を見てしまった以上、放置できません。東大阪市教育委員会、大阪府教育委員会、文部科学省に、9段ピラミッドは危険なので中止するよう要請しました。

東大阪市教育委員会より回答がありました。市教委は通知しているが学校側が実施しているとのこと。これだから事故が起こります。

http://yutaka-nishiyama.sakura.ne.jp/math/kumi_2018_11_7.pdf

(2) 兵庫県西宮市では、2017年11月9日、阪神甲子園球場で第63回中学校連合体育大会（中連体）が開催されていますが、そこでは5段タワーが実施されています。

<https://www.nishinomiya-school.jp/171109jhrengoutaiikutaikai/>

兵庫県は3年連続で事故最多ですので、事故との関連から西宮市教育委員会、兵庫県教育委員会、文部科学省のホームページから危険な技はやめるように意見をあげました。

http://yutaka-nishiyama.sakura.ne.jp/math/kumi_2018_10_16.pdf

兵庫県知事室から回答がありました。

http://yutaka-nishiyama.sakura.ne.jp/math/kumi_2018_10_29.pdf

参考資料・参考文献

[1] 日本スポーツ振興センター「平成29年度 都道府県別 小中高校別 災害共済給付における体操（組体操）での給付件数（初回医療費）」2018年11月12日、申請書による情報提供

[2] 日本スポーツ振興センター「体育的行事における事故防止事例集」平成29年3月発行

https://www.jpnsport.go.jp/anzen/Portals/0/anzen/anzen_school/28jireisyu.pdf

[3] 西山豊「2016年広島移動ピラミッド死亡事故を検証する（レポート）」（私信）2018年10月31日

http://www.osaka-ue.ac.jp/zemi/nishiyama/math/kumi_2018_10_31.pdf

[4] 日本スポーツ振興センター学校安全部「組体操による事故を防ぐために！」（教職員向け、平成29年9月号）

http://www.jpnsport.go.jp/anzen/Portals/0/anzen/kenko/pdf/card/H29/H29_9_3.pdf

（上記URLの最終閲覧日：2018年11月19日）